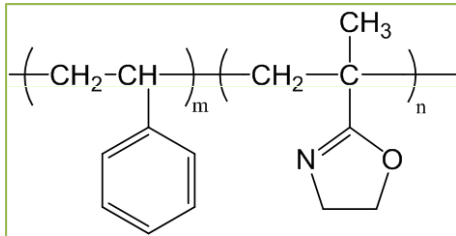
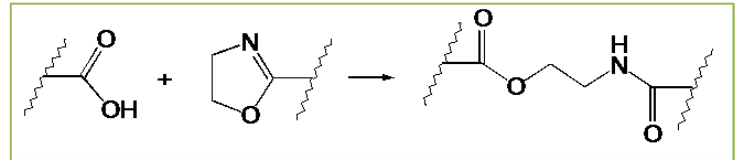


エポクロス® RPS-1005は、日本触媒が世界で初めて企業化したオキサゾリン基を含むポリスチレン系樹脂です。オキサゾリン基は、極性官能基であると共に、カルボキシル基と高い反応性を有するため、各種アロイ、無機強化樹脂などの反応性相溶化剤、分散剤としてエンジニアリングプラスチック分野での応用が期待できます。

構造式



オキサゾリン基の反応



基本物性

項目	代表値	試験方法、条件
主骨格	スチレン	
外観	白色粉砕品	
重量平均分子量	160,000	GPC (ポリスチレン換算)
比重	1.05	JIS K7112 (B法)
オキサゾリン基量	0.27 mmol/g	計算値
ガラス転移温度	109°C	DSC法
熱分解温度	403°C	TG-DTA法 5%重量減少温度 (窒素雰囲気下測定)
メルトフローレート	6-10g/10min	5kg荷重, 200°C

※上記物性値は、あくまで代表値であり、これらの数値を保証するものではありません。

用途例

- 相溶化剤** : スチレン系、フェニレン系樹脂 (PS,PPS,PPE) / エステル系樹脂 (PBT,PET) の相溶化剤
 エステル系樹脂のカルボキシル基とオキサゾリン基が反応することで、分散相の微分散化が生じ、アロイの衝撃強度・伸びなど諸物性改良に効果がある
- 分散剤** : スチレン系、フェニレン系樹脂 (PS,ABS,PPS,PPE) での、GFなど無機充填剤の反応性分散剤

RPS-1005の相溶可能な樹脂	オキサゾリン基と反応可能な官能基	オキサゾリン基と反応可能な樹脂
PS HIPS PPS PPE	カルボキシル基	PET, PBT, PA 酸変性ポリオレフィン
	芳香族SH基	PPS
	芳香族OH基	PC, PPE